

<研究課題名>

子どもへの成育環境の影響を測定するマルチモダール MRI 神経ネットワーク指標の開発

慢性的な疾患をもつお子さんとそのお母様へ

現在、東京大学医学部附属病院こころの発達診療部では、お子さんとそのお母様を対象に、MRI（脳画像）研究に参加していただける方を募集中です。

以下の項目に、すべて該当するかどうかをご確認ください。

この研究にご参加いただける方

【お子さん】

☐	① 現在、小学生で8~12歳の方
☐	② 日本語での会話、面接、検査の実施ができる方
☐	③ 各科の専門医の診察により、アレルギー性疾患、喘息、腎疾患、炎症性腸疾患のいずれかの診断を受け、東京大学医学部附属病院または国立成育医療研究センターにて、1か月以上の定期的な外来通院での加療を行っている方
☐	④ この研究に参加することについて、主治医からの承認を得た方

【お母様】

☐	① 現在、20~60歳で、お子さんのお母様、女性の養育者や保護者の方
☐	② 日本語での会話、面接、検査の実施ができる方

※この他にも、研究に参加していただくための基準があります。

医師および心理士が検査などを行い、参加できるかを確認させていただきます。

この研究を行う目的

子どもの成育環境は、社会の要因・養育者側の要因・子ども側の要因（愛着の質、疾患特性など）の三者が相互に影響しあって形成され、その中でも特に子どもの愛着が重要であると考えられています。そこで本研究は、愛着が形成される複雑な生物学的メカニズムの一つと考えられている情動の制御に関与する脳回路に着目し、MRIによる脳構造画像や脳機能画像を用いて研究を行います。

この研究は、MRIを用いて子どもの愛着に関連する脳回路結合を調査し、成育環境の脳回路への影響を測定する客観的な指標を確立することを目的とするものです。

この研究で実施する内容

▶ Part 1：成育環境の脳に与える影響の指標開発【こどもと親のMRI研究】

お子さんとお母様には、

1. MRI 検査（MRI を用いた脳機能計測）
 2. MRI 検査の前後に、アンケートへの回答
 3. インタビュー（研究者との面接）
- をお願いいたします。

※ MRI 検査については、平日の 9：00～17：00 の間に実施いたします。

夏休みなどの長期休暇の間に参加していただくことも可能ですので、ご都合に合わせて日程を調整いたします。

▶ Part 2-②：成育環境を変化させる心理社会的治療の効果検証

「病気をかかえる子と親のサポートプログラム研究」

さらに、上記の MRI 検査を実施する研究にご参加いただいた方は、引き続き、慢性的な疾患をもつお子さんとお母様を対象とした「病気をかかえる子と親のサポートプログラム」にもご参加いただけます。

その場合、お子さんとお母様には

病気をかかえる子と親のサポートプログラム

期間：週 1 回×10 週間

時間：1 回あたり 90 分

場所：国立成育医療研究センター病院

に参加していただきます。

相談・問い合わせ窓口

この研究にご興味のある方は、お子さんの主治医にご相談ください。

＜研究責任者＞

国立成育医療研究センター病院 こころの診療部思春期リエゾン診療科

診療部長 田中恭子

こどもと親の

小学生のお子さんとそのお母さまを対象に、MRI（磁気共鳴画像）での脳画像研究に参加してくださる方を募集しています



参加者

募集

東京大学医学部附属病院
東京都文京区本郷7-3-1

▽ 参加要件

※ この他にもいくつかの参加要件があります。
くわしくは、webサイトでご確認ください。

【お子さん】

- 8～12歳の小学生
- 専門医により、アレルギー性疾患・喘息・腎疾患・炎症性腸疾患のいずれかの診断を受け、1ヶ月以上の治療を行っている方
- 日本語での検査や面接ができる方

【お母さま】

- お子さんのお母さま（20～60歳）
- 日本語での検査や面接ができる方
- お子さんと一緒に研究に参加できる方

※ 病気をかかえる子と親のサポートプログラムをご希望の方は、プログラム前後に本研究へのご参加をお願いしております。

くわしくは、東京大学医学部附属病院
こころの発達診療部のHPをご覧ください。

東大病院 こころ MRI研究



▽ 謝金

1組につき5000円

▽ 研究参加期間

平日（9～17時の間）

※ ご希望に応じて日程を調整いたします。
夏休みなどの長期休暇に合わせて日程を組むことも可能です。

▽ 募集期間

2019年（令和元年）
～2022年（令和4年）度

▽ お問い合わせ先

国立成育医療研究センター病院
こころの診療部

メールアドレス：

kokoro.kodomoliaison@gmail.com

この研究は、多施設での共同研究であり、主たる研究施設である東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、国立成育医療研究センター病院長の許可を受けて実施するものです。

【研究課題名】 子どもへの成育環境の影響を測定するマルチモーダルMRI 神経ネットワーク指標の開発
【研究責任者】 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部 石井礼花 助教
国立成育医療研究センター 思春期リエゾン診療科 田中恭子 診療部長
聖心女子大学 現代教養学部 向井隆代 教授



慢性疾患をもつ小学生のお母さま

お子さまとのかかわり方で 悩んでいませんか？

こんなお悩み、ありませんか・・・？

- ・子どもの病気のこと、子どもにちゃんと説明できていない
- ・子どもの成長に合わせたかかわり方ってあるのかしら？
- ・つい怒ってしまう/つい甘やかしてしまう



成育医療研究センター病院こころの診療部では、
慢性疾患をもつ小学生のお子さまとお母さまを対象に、

病気をかかえる子と親の サポートプログラム (全10回)

を臨床研究として実施しています！！



お子さんと一緒に、お子さんの病気のこと、子育ての
ことなどの対応方法を一緒に楽しく学びましょう！

※ 効果を評価するため、プログラム前後においてMRI検査および面接、質問紙にご協力いただきます。
※ 臨床的にみて支援が必要であり、またその支援を希望される場合、こころの診療部受診という形をと
らせていただいたうえで、当部でケアのフォロー、または必要に応じて地域のリソースを紹介させてい
ただく場合があります。

詳しくは、主治医の先生にご相談ください

お問い合わせ先

国立成育医療研究センター病院こころの診療部
メールアドレス：

kokoro.kodomolaiison@gmail.com

くわしくは、東京大学医学部附属病院
こころの発達診療部のHPをご覧ください。

東大病院 こころ MRI研究



この研究は、多施設での共同研究であり、主たる研究施設である東京大学医学部倫理委員会
の承認を受け、国立成育医療研究センター病院長の許可を受けて実施するものです。

【研究課題名】子どもへの成育環境の影響を測定するマルチモーダルMRI 神経ネットワーク指標の開発

【研究責任者】東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部 石井礼花 助教

国立成育医療研究センター 思春期リエゾン診療科 田中恭子 診療部長

聖心女子大学 現代教養学部 向井隆代 教授



研究参加のためのチェックリスト

【慢性疾患をもつお子さんのお母さまについて】

1	慢性疾患の診断と、1 ヶ月以上の加療および入院歴、もしくはエピペンの所持がある児の母親（20～60 歳）である。 （慢性疾患：アレルギー性疾患、喘息、腎疾患、炎症性腸疾患）	
2	日本語での文書および口頭での意思疎通が可能である。	
3	子どもと一緒に研究参加が可能である。	
4	研究期間中、東大病院・成育センター病院への来院が可能である。	
5	研究期間中、必要なときに連絡のとれる手段（電話・email）がある。	
6	統合失調症、双極性障害、重篤なアルコール依存症、薬物依存症ではない。	
7	臨床的に速やかな薬物治療を開始する必要がある精神症状（うつ病、高度な不安、緊張、激越など）がない。	
8	本研究の参加期間中、他機関において治療を目的とした医学的研究・心理社会的研究・心理社会的アプローチなどを受ける予定がない。	
9	心臓ペースメーカーを使用していない。	
10	脳血管クリップを使用していない。	
11	人工心臓弁を使用していない（プラスチック製であれば可能）。	
12	神経の電気刺激装置を使用していない。	
13	埋め込み式ポンプを使用していない。	
14	カテーテル、チューブを使用していない。	
15	金属片の体内残存がない。	
16	金属による目の外傷（X 線による金属片残存の可能性）がない。	
17	耳内人工物を使用していない（人工鼓膜は可能だが、人工内耳は不可）。	
18	入れ墨（眉毛やアイラインなどのアートメイク）がない。	
19	現在、妊娠している可能性がなく、研究参加中も妊娠の予定がない。	
20	これまでに、慢性疾患児支援プログラムに類似した治療を目的とした新たな心理・社会的アプローチ（心理療法、行動療法、認知行動療法等）への参加経験がなく、今後も実施予定がない。	
21	10 回のプログラムおよび心理検査に安定して参加可能である。	

【慢性疾患をもつお子さんについて】

1	研究参加時、8～12 歳の小学生の児である（性別は問わない）。	
2	慢性疾患の診断と、1 ヶ月以上の加療および入院歴、もしくはエピペンの所持がある。 (慢性疾患：アレルギー性疾患、喘息、腎疾患、炎症性腸疾患)	
3	※合併症として、反抗挑戦性障害、行動障害、チック症、学習障害、軽度な不安障害、軽度な感情障害を有していてもよい。	
4	本研究の参加について、十分な理解の上で自由意思による同意が可能である。	
5	研究参加について、主治医より許可を得ている。	
6	母親と一緒に研究参加が可能である。	
7	日本語での文書および口頭での意思疎通が可能である。	
8	統合失調症および双極性障害の診断を受けていない。	
9	臨床的に速やかな薬物治療を開始する必要がある精神症状（うつ病、高度な不安、緊張、激越など）がない。	
10	本研究の参加期間中、他機関において治療を目的とした医学的研究・心理社会的研究・心理社会的アプローチなどを受ける予定がない。	
11	本研究の参加期間中において、服薬内容の大幅な変更を行う予定がない。	
12	知的な遅れがない。	
13	重度の自閉スペクトラム症ではない。	
14	ADHD 特性を有しない。	
15	心臓ペースメーカーを使用していない。	
16	脳血管クリップを使用していない。	
17	人工心臓弁を使用していない（プラスチック製であれば可能）。	
18	神経の電気刺激装置を使用していない。	
19	埋め込み式ポンプを使用していない。	
20	カテーテル、チューブを使用していない。	
21	金属片の体内残存がない。	
22	金属による目の外傷（X 線による金属片残存の可能性）がない。	
23	耳内人工物を使用していない（人工鼓膜は可能だが、人工内耳は不可）。	
24	入れ墨（眉毛やアイラインなどのアートメイク）がない。	
25	現在、妊娠している可能性がなく、研究参加中も妊娠の予定がない。	
26	これまでに、慢性疾患児支援プログラムに類似した治療を目的とした新たな心理・社会的アプローチ（心理療法、行動療法、認知行動療法等）への参加経験がなく、今後も実施予定がない。	
27	参加が求められる回へのプログラム参加、心理検査への参加が安定して可能である。	